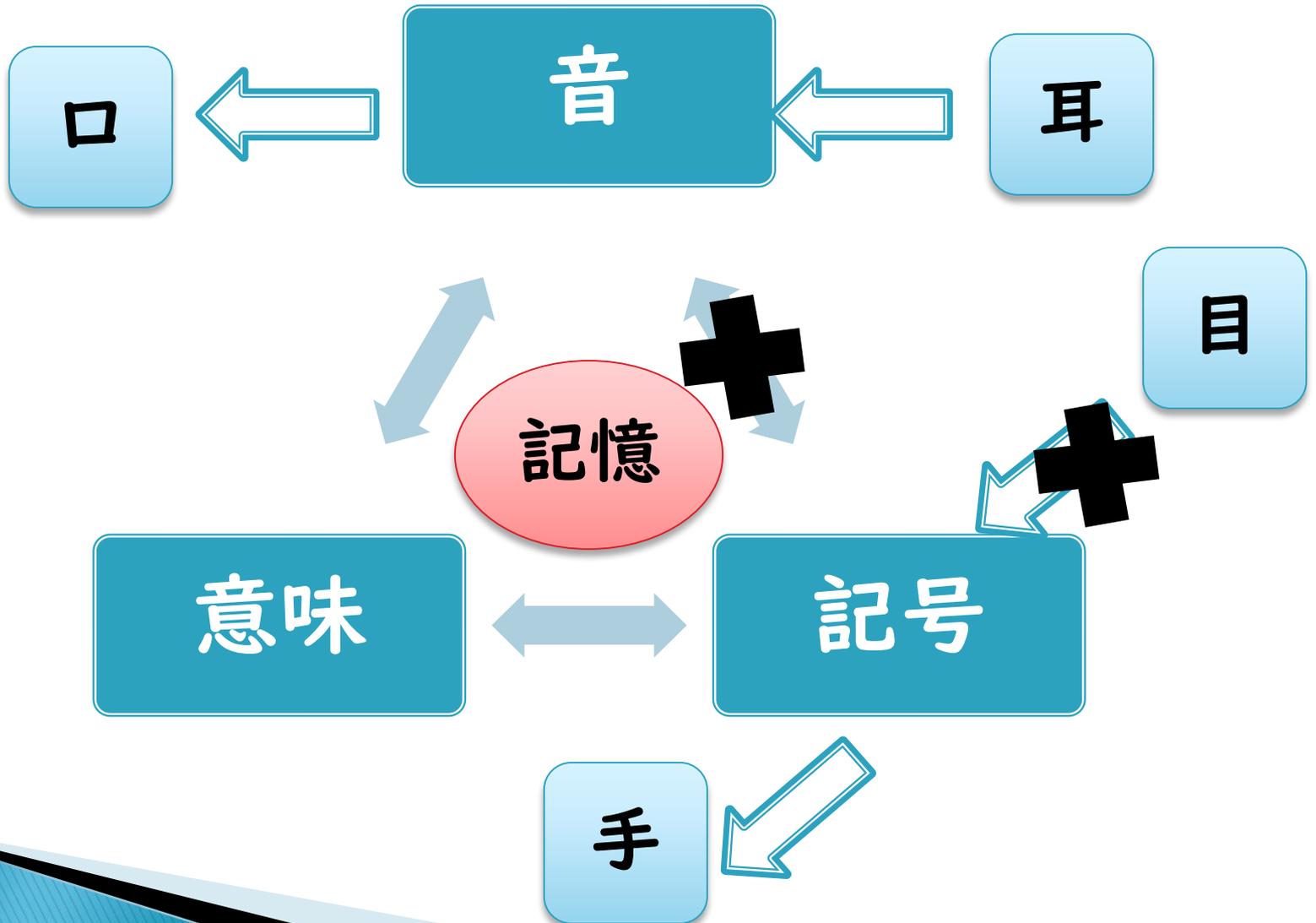


2019 音声教材BEAM

認定NPO法人エッジ

BEAMの目的

ディスレクシア 読みの速さ 流暢さ 正確さに困難



- ◆ 「文字の読み」にかかる負担をなくし、直接内容理解に繋がられることがねらいである
- ◆ 勿論、文字を見ながら聞くこともでき、文字の読みの支援にもつながる

BEAMの特徴

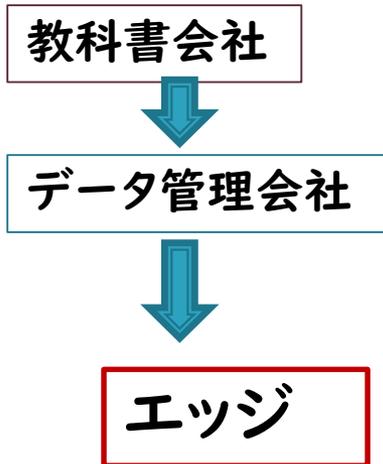
特徴 | 教科書の本文を中心に音声化



内容が一貫性のあるストーリーとして伝わるために、いわゆる本文以外の文字表示(例:挿絵の解説文、年表、地図の地名、吹きだしの言葉等)は、削除してある。

国語: 物語、説明文、手引き等を一つの単位としている。
社会: 基本的に見開2ページ分の、小タイトル単位。

気をつけていること



「正しい日本語」
が耳から入るよう
作製

- ① 送られてきたテキストデータから、音声化する台本を作る（不要な部分の削除、適切な休止挿入、順番の入れ替え等）
- ② 音声化する（人工音声プログラム声の職人）
- ③ 音声化されたものを全部聞いて、正しいかどうかチェックする（読み方、アクセント、イントネーション）
- ④ チェックした箇所を修正する
- ⑤ 修正箇所を再度聞き、チェックする（誤りがあれば、またここで修正へ）
- ⑥ 最終チェック

特徴2 音声のみの教材

◆人間の音声を分析した上で作成する人工音声プログラムを使用

◆MP3の形式で、ダウンロードできる



作成点数

(8月現在) 89冊

小学校国語	5社	46冊
小学校社会	3社	14冊
中学校国語	5社	14冊
中学校地理	3社	3冊
中学校歴史	5社	5冊
中学校公民	4社	4冊
小学校道徳	1社	3冊

昨年度の申込者数

個人登録:361

- ・保護者 293名
- ・学校の教員 9名
- ・学校以外の支援者 8名
- ・本人 12名

団体登録:40

- ・学校 34
- ・データーサービス等 4
- ・教育委員会 1
- ・教育支援センター 1

入手方法 エッジホームページより

[認定NPO法人 EDGE \(エッジ\)](#) > [学習支援](#) > [BEAM\(音声教材\)](#)

BEAM(音声教材)

[BEAM\(音声教材\)](#) ▶ [登録申請](#) | [使用方法](#) | [よくある質問 \(Q&A\)](#)

音声教材について

ディスレクシアの方は音声化された情報の方が理解しやすいことがあります。

また、教科書を見ながら、音声で聞くことで文字と音と意味が繋がることもあります。

NPO法人エッジでは文科省より委託を受け、国語と社会の教科書の本文を中心に音声化したもの（音声教材BEAM）をダウンロードできるようにしました。

ディスレクシアを含むLD、学習に困難さを持っている児童生徒に無償で提供しています。

▶ [試験 \(試しにきいてみましょう\)](#)

BEAMは音だけなので聴くことに集中できて、内容がスラスラ入るよ。

MP3なのでいろいろな機材で使えるよ。 [電子辞書](#)、 [音声ペン](#)でも使えるようになったよ。

入手方法 こんな情報を入れてください

お名前（ふりがな）

お立場：保護者 学校の教員 学校以外の指導者 その他

メールアドレス

住所

電話

利用者名（ふりがな）

学校名

学年

アセスメント経験の有無

具体的な読みの困難さ

必要教科 出版社名

活用事例

どのように活用されているか（家庭で）

高校生Aさん

「生物」の音声教材を家庭学習で使用。

ボイスレコーダーで1.3倍速にし、手元の教科書と自分をつなぐものとして活用した。

小学生B君

主に予習用として、パソコンにダウンロードし、家庭での夜の学習で使った。大変助かった。

小学生C君

自宅で夕方などの宿題の時間に、音読練習などを目的として、タブレットで利用している。

また始めたばかりだが、音読が苦手なので、聞いて理解しやすくなったように思う。



小学生Dさん

音声ペンで聞いた。前は時間がかかって忘れてしまうことが多かった。読んでくれるからスラスラいける。進みがはやい。

中学生E君

テスト前に、音声ペンで歴史の教科書の内容を聞き、知識のまとめと確認をした。とても役立った。

昨年6月にモニターを募集し、6名に実際に使ってもらった(学校現場1件)※音声ペン会社の協力

どのように活用されているか（学校現場）

【通常の学級で：私立中学校】

【通級指導教室で】

【特別支援教室で】

【通常の学級で：複式学級】

【通常の学級で：教育委員会による一括ダウンロード】

【視覚特別支援学校】

通常の学級での使用例

授業の最初に予習の時間を設ける(地理)

時間内は繰り返し聞く

自分のやり方で(教科書を活用する・しないは自由)

学習の振り返りを確認プリントで確認する



- ①通常授業で多動傾向の生徒が集中参加
- ②授業に関係ある発言増加
- ③授業開始5分間の活用でクールダウン効果
- ④毎回途中退出生徒が、最後まで参加
- ⑤正答率の変化

通級での使用事例（4年男児）

- ・ 文字を見たくない。自分で読んでもよくわからない。読んでもらった方が簡単。

→ 音声教材BEAMが有効と思われる。



学級での授業の前に予習の形で少しずつ聞かせ、内容を把握させておく

<使用後のアンケート、聞き取りから>

- ・ どんな話か、内容がわかった。
- ・ 話の内容がわかって安心した。
- ・ 家でも聞いてみたいと思った。

【特別支援学級での使用】

- ▶ 5年生男児
- ▶ 文字から情報が入りにくいという特性がある。
- ▶ 理科の実験等では、要点をつかむことができていた。
- ▶ →社会科の時間に活用
- ▶ 内容を理解し、興味も持つようになってきている。

【通常の学級での使用：複式学級】

国語の学習の時間に、音声による理解支援が必要な子どもがいたので、わたりの際の際の範読で活用した。

教育委員会単位での活用

東京小金井市の実践例

BEAM体験講座を、学校教職員、保護者、支援者対象に実施

教育委員会がデータをダウンロード

BEAMを活用した授業の実践

- ①学習活動がシンプルにわかりやすくなった
- ②範読の時間に支援をすることができた
(BEAM活用)
- ③音声教材を必要とする児童のスクリーニングにもなった

今後の方向性

- ▶ 基礎的環境整備の一環として、すべての学校に用意されているものであってほしい。
- ▶ 公共図書館等で活用できる状況になるとよい。
- ▶ 作製した教科書音声教材BEAMが生かされる形での、諸関係機関・団体との連携ができるとよい。

入手は ホームページから

<http://www.npo-edge.jp/>

mail: beam_edge@npo-edge.jp

ご清聴 ありがとうございます